

1

説明的文章(1) — 指示語・接続語

◆指導ページ P.2～5◆

【指導のポイント】

文章中における指示語と接続語について学習する。これらは、文章を支える根幹である。指示語の内容を読み取ること、接続語の役割を理解することを目指す。文章読解の基本であり、論説文の基本であり、論説文や抽象度の高い文章には頻出する。指示語・接続語に注目し、論旨を捉えることを目標にする。

例題の板書例

重要語句

○退化⇨おとろえること。
○養育⇨大切に育てること。

■論旨

成長の目的 ⇨ 社会の中で幸せになる力を身につけること

補題 (その実現のための)

別の目標 ⇨ 親から切りはなされても生きていけるものになること

親を育てること ⇨ 親を乗りこえること

親孝行
(その実現)

親とのいい関係

- ・いたわりの心が持てる
- ・感謝の思いがわく

親はそれを願って子を養育している

演習問題の板書例

重要語句

○賜物⇨あることの結果として現れた成果。

■論旨

醤油の香りは、加熱により多種の香気成分が副産されるためであり、麴文化の賜物である。

■論理展開

醤油は世界約百カ国で販売される、世界的な調味料

醤油の原型である「比之保」がはじめてつくられたのは約二千年前の弥生時代

- ・はじめは魚介の塩漬け汁

醤油と呼ばれるようになったのは室町時代の末期

醤油は大変に香りの高い調味料

- ・醤油はそれ自体強いおいを持つうえに、調理時の加熱反応によってその芳香は強烈になり、魚類の生臭みや獣肉の臭みを簡単に消す魔法の調味料
- ・外国の食卓⇨コショウ、マスタードなど、香辛料(スパイス)が多い
- 日本の食卓⇨醤油だけ

疑問の提示 ⇨ 醤油のあの強烈なおいはいったい何だろうか

「火入れ」⇨ 醤油中の酵素の破壊と発酵微生物の殺菌を目的に行われる加熱作業

醤油の中には多量のアミノ酸や糖があつて、加熱されると互いに結合

⇨ アミノカルボニル反応

=

これによりカルボニル化合物を中心とした香ばしさを持つ多種の香気成分が副産される

⇨ これこそ、日本酒、味噌と同様に、わが国独特の麴文化の賜物、麴菌の神秘がなす美技

2

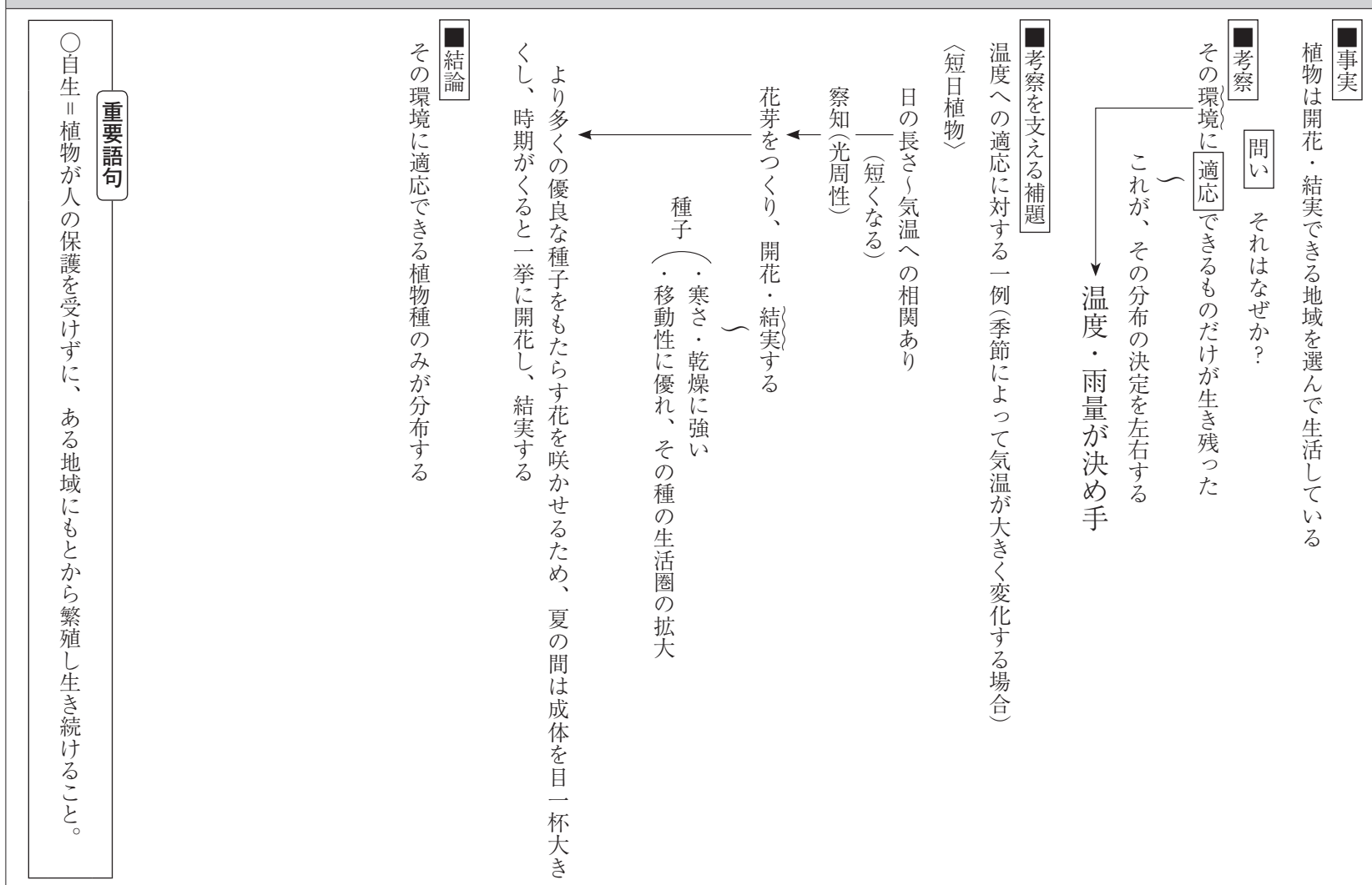
説明的文章(2)——段落相互の関係

◆指導ページ P.6～9◆

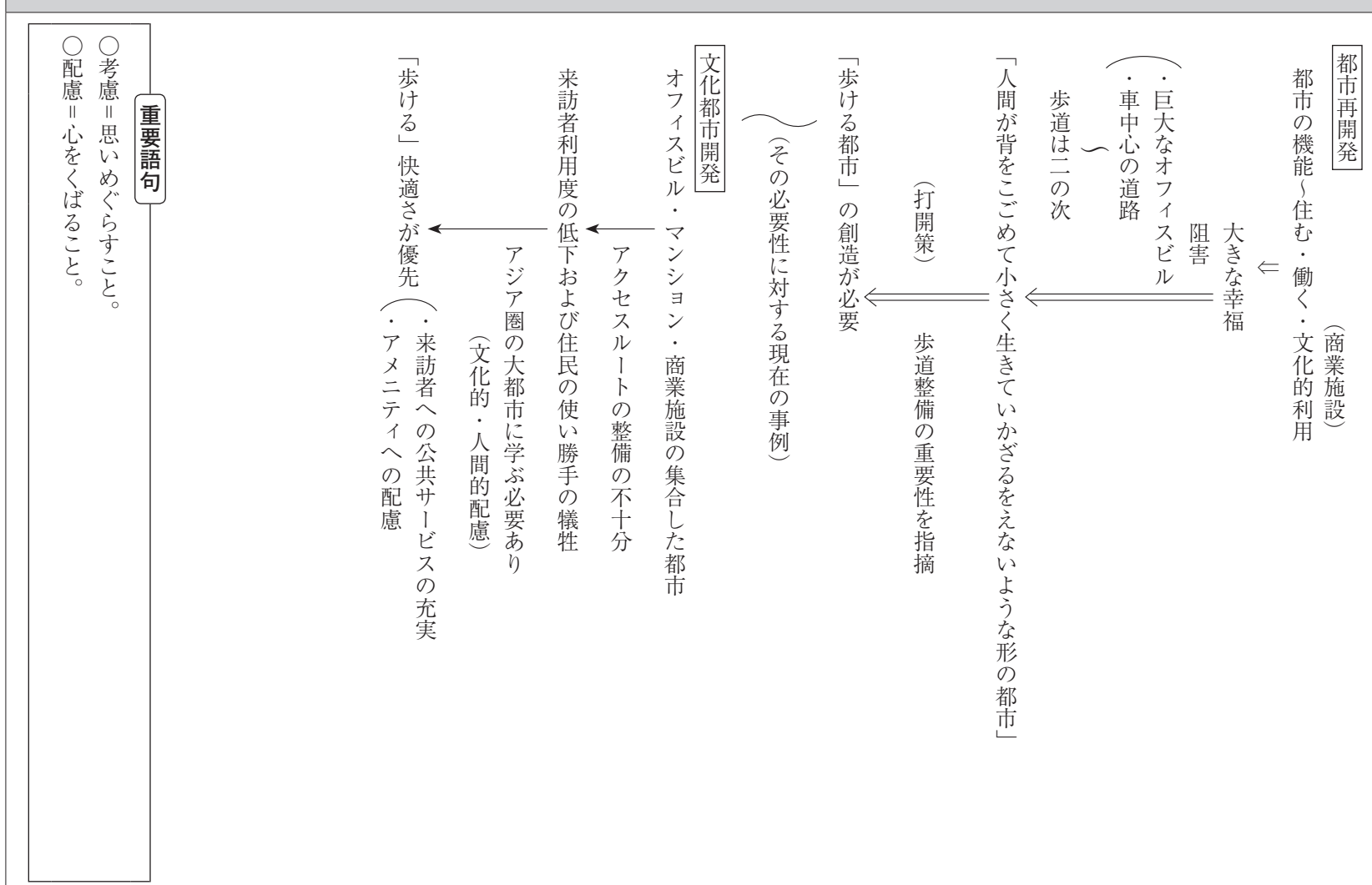
【指導のポイント】

文章は「事実・例示」、「考察」、「問い」、「結論」などから構成されている。筆者はそれを段落ごとに構成し、論旨を展開している。接続詞や内容をもとに、各段落の関係を理解していくことは、筆者の主張を理解する正攻法である。ここでは、文章を構成する段落のもつ役割を考えながら、文章を理解することを目標にする。

例題の板書例



演習問題の板書例



3

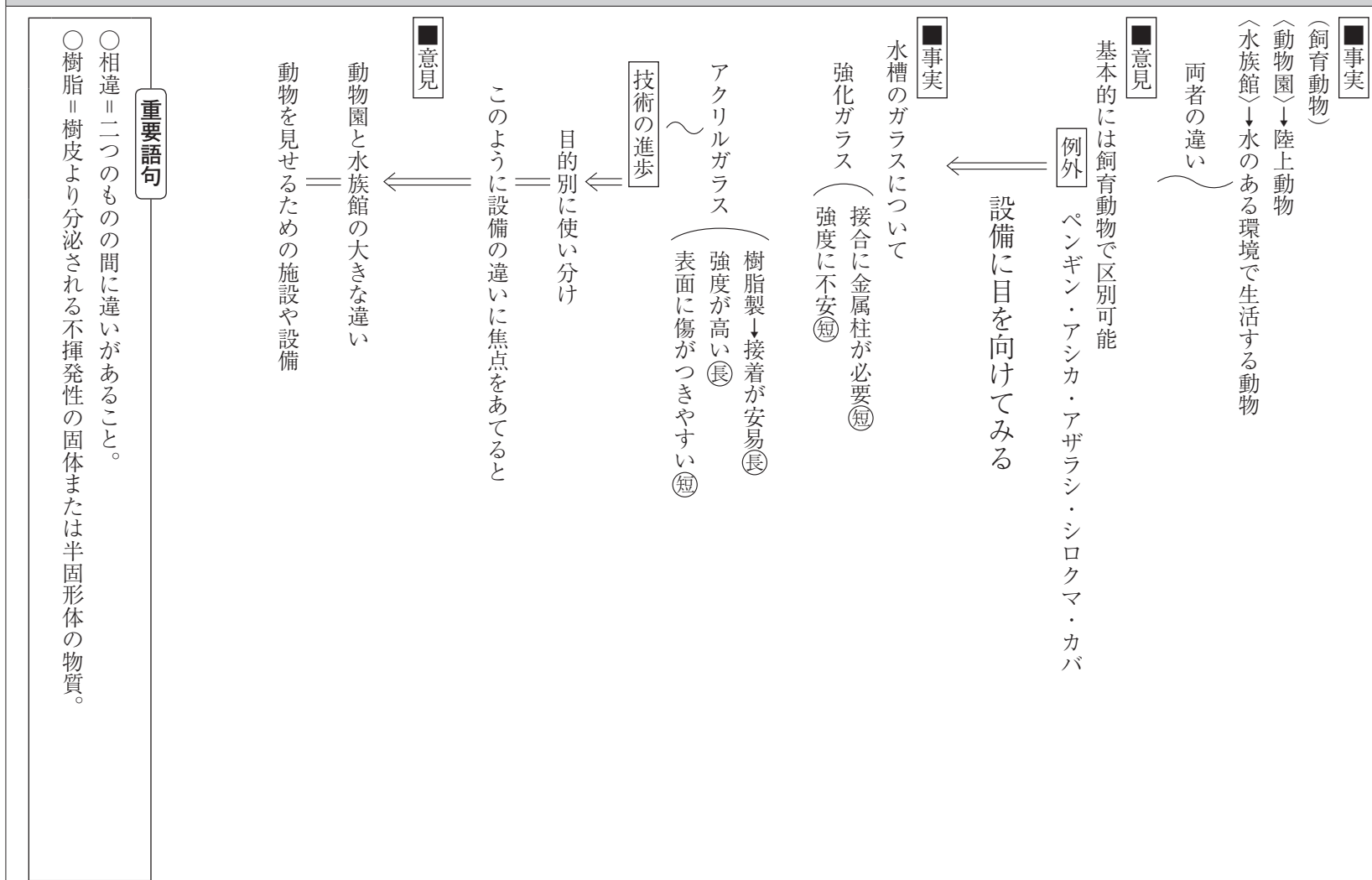
説明的文章(3)——事実と意見

◆指導ページ P.10～13◆

【指導のポイント】

説明的文章では、ある事実・事例を挙げ、そこから提起している問いについて論じることが多い。文章中において、事実・事例とそこから論じられている主張を区別し、その論理展開を理解する必要がある。このとき、文末の表現を参考にすることが有効である。ここでは既知の事実と筆者の意見を区別し、筆者の主張を読みとることを目標とする。

例題の板書例



演習問題の板書例



4

説明的文章(4)——要旨・論旨

◆指導ページ P.14～17◆

【指導のポイント】

説明的文章では、各段落の要旨・論旨の書かれた中心文を探しながら読むことが重要である。中心文は、たいいてい段落の最初か最後に置かれている。そして、多くの場合、接続詞「つまり」や「こうして」などから導かれる。ここでは、反復語句や問題提起の文に注意し、段落の中心文を探し、それをもとに文章全体の要旨・論旨をつかむことを目標にする。

例題の板書例

■論旨
人の欲望を満たし、地球を保存し、次の世代に残すには「ソフト志向」が有効である。

■論理展開
事実
〈借りること〉
できればさげたい(返済責任がつきまとう)①
←
使用頻度の低いものは他者との共有が有効であるとわかる②

■意見
借りることの有効性は少しずつ認識している
←
〈生きものの特徴〓続いていくこと〉(筆者のよりどころ)
←
〈所有欲を断たずに、それを実現〉
←
「ソフト志向」(環境問題の解決
・ハード…禁欲…x
・ソフト…思う存分使う
=

地球は私たちだけのためのものではないと認識し、謙虚さをもって借りる

重要語句
○短絡〓前提と結論などを性急に結びつけること。

演習問題の板書例

■要旨
「やせ症」の人々は、歪んだ身体へのイメージと体重を数字としてしか認識しないことが根本の問題である。

■論理展開
〈一般の人々〉
自らが太っていると認識する
←
やせなくては！
←
自らの基準を満たせば、止める

〈やせ症の人々〉
自らが太っていると認識する
←
やせなくては！
←
自らの基準を満たせば、止める
←
基準がどんどん下がる

自らが太っていると認識してしまい、減量を止めることができない

重要語句
○不全〓機能しなくなり、障害をきたすこと。

5 小説文(1)—— あらすじ・場面・情景

◆指導ページ P.18～21◆

【指導のポイント】

小説文は、人物の感じたこと考えたことを読み込んでいくことが必要となる。このとき、その人物がどのような背景で、どういった状況にあるのかをまず理解する必要がある。次に文章中の情景の描写を表す言葉や語句の表す意味を理解していく。ここでは、そういった小説文の読み方の基本をつかむことを目標にする。

例題の板書例

■背景

鏡池若葉にとって初めてウエイトリフティングの大会

■情景

〈競技会スタート前〉

「あ……」

ドアの隙間から観客席に団藤建太の姿を見つけて声を漏らす

〈競技会スタート〉

若葉はステージの上に立つ

観客席が遠く見えるのは幸いだった。貧々が見ていることも建太がいることも、今は忘れよう ↓ 競技に集中

「鎌倉長谷高の鏡池若葉です」

激しい曲を演奏するロックバンドのドラムのように、鼓動は加速してどどどどどと早鳴りし始めた

怖いか逃げたい、というのとは違った

ワクワクなんてしていない、はず。なのにそれに近く、胸が弾んでいる

↓緊張／本番に対する気持ちの高まり

なんだか笑っちゃいそうになって、ちらつと鷹見先生を振り返った

演習問題の板書例

■背景

山野海人：駅伝大会の二区の走者。 出番直前

■情景

〈沢田瞬太からたすきを受け取る〉

沢田瞬太：一区の走者。先月の大会でのすごい追い上げを、海人は息をするのを忘れて見ている

← 沢田からたすきを受け取る

はじけるような返事をして、海人はスピードを上げた
全力疾走だ！

走る前から、十分に気持ちに乗っていた。早く走りたくてうずうずしていた
空は澄み渡り、風もない ↓ 走ることに集中／心地よい気持ち

ただ、前に前という脚の欲求のままに、がむしゃらに進んだ

〈たすきをかけるのを忘れていたことに気づく〉

あせったような声がかきこえたのは、三百メートルほど走ったころだろうか
声援にしてはせっぱつまっている声に視線を走らせる

← 斎藤湊が沿道を一緒に走っている

「たすき、たすきっ」

← たすきをかけるのをすっかり忘れていた

← パンツの中に、あまったたすきを突っこみながら、感謝をこめて叫んだ
わずかの手間の分だけ遅れたが、それはかえって海人を落ちつかせた

← 周りの風景がくっきりと見えてきた

重要語句

- がむしゃら⇨後先考えず強引に事を行うさま。
- せっぱつまる⇨物事が差しせまってどうにもならなくなる。

小説文(2) — 心情

◆指導ページ P.22 ~ 25 ◆

【指導のポイント】

小説文は、登場人物の背景・状況を理解し、情景の描写から、その人物の心情を読み込んでいく必要がある。ここでは工夫された情景表現、特に色彩による表現に注目する。色彩のもつイメージと、心理的状況の表すイメージを考えながら読んでいくことを目標にする。小説文の理解に必要な基本的な知識になっていく。

例題の板書例

〈発車のベルが鳴る前〉
春々芽吹き
淡い桜色の何か↓若い女のひと
漠然とした期待感
(それにも増して)
その女性の横顔(清冽・凛)
〈発車のベルが鳴る〉
彼女は乗るのをためらっている
無意識に彼女の乗るペースをつくる
彼女が横にすべり込む
彼女の髪が僕の鼻先で揺れた
ほろびかけた桜のつぼみのようなさっぱりとした香りがした
期待感

〈発車〉
僕はひそかに彼女を観察した
横顔
・ 端整、清潔
・ 憂い、寂しげ
↓ ミステリアス
ピアス(桜の花びらに木のしずく)
かわいらしさ
『夏への扉』 ↓ とても気持ちのいい小説
進展の期待感

重要語句
○ 清冽 || 清らかに澄んで冷たいこと。
○ 端整 || 顔などが美しく整っていること。

演習問題の板書例

■ 背景
京都から江戸に出てきて豆腐屋を営む永吉は、お客から商売を辞めてしまうのではないかと心配される

■ 情景
〈客に商売の心配をされる〉
「お豆腐、あまり売れてないのね」
言葉に詰まった永吉は、小さくうなずいた
「そう………たいへんねえ」
湿っぽい立ち話

〈相州屋へのあさいつ〉
永吉は下腹に力を入れて声をかけた
両目の光に年季の入った職人特有の強いものを残したひとが現れた
永吉は相手の強い目を見詰めたまま、永代寺への喜捨を赦して欲しいと頼み込んだ
相州屋はなにも答えない
永吉は居心地のわるさを抱えつつも、相州屋から目を逸らさなかった
「どうぞ勝手にやんなさい」
永吉は深々とあたまを下げて店先を離れた
背に相州屋の強い目を感じたが、いまの永吉には撥ね返す力が内に湧いていた
きょうがほんまの始まりや……

〈富岡八幡宮への祈願〉
「気合を入れて豆腐を造ります」
力強い足取りで本殿をあとにした ↓ 永吉の豆腐造りに対する強い意志
高い空から降りてくる初秋の陽が、参道を柔らかに照らしている
境内の銀杏がわずかに色づき始めていた

重要語句
○ 戒め || 過ちを犯さないよう前もって与える注意の言葉。

随筆文—表現

◆指導ページ P.26～29◆

【指導のポイント】

随筆文は、筆者の実体験をもとに書かれている。出来事の描写は、筆者の目に映るものをもとに描かれる。必然的に「～のようだ、～みたいだ」といったたとえの表現が多くなる。ここでは、そのたとえの表現を正しく捉え、文章の内容を理解することを目標にする。そこから筆者の物事の取り上げ方や見方・考え方を捉えていく。

例題の板書例

〈散歩にまつわる思索〉

- ・体：一歩一歩前進している
- ・気持：一点にとどまり、体が通り過ぎた跡をじっと見つめているよう
- ・行進：目的地をしっかりと見据えた勇ましき
- ・ピクニック：心浮き立つ雰囲気
- 散歩：静けさが漂い、文学が似合う

〈筆者の散歩〉：ただ犬の散歩に付き合っているだけ

- ・電信柱の根元などに鼻を押し付け、眉間にしわを寄せ、宙の一点を見つめる犬の表情は、生きることの複雑さを嘆いているように見えなくもない

・通りかかった三つくらいの子とお父さんの遊び

男の子は世界中に何一つ嘆きなどないという顔。完璧な安心

：自分の息子のときには気づかなかった、特別に与えられた一瞬

私は、何もかもが手遅れで取り返しがつかないような気分になり、自分の愚かさを嘆く

まるで嘆きを求めるかのように、また散歩に出かける

演習問題の板書例

〈十三年前の北欧でのこと〉

〈到着当日〉

東京は梅雨の終わりでむし暑い

ヘルシンキの空港はみぞれまじりの雨で寒い

夕暮れ時の薄明り、そこで時計が停止していた

← 時計は夜を刻んでいくが、それ以上は暗くならない

白夜

（もつと北では太陽は沈まず地平線を横すべりして夜が明ける）

体内時計が狂う

（時差及び白夜）

〈その翌朝〉

いい天気の中、湖のある公園に向かう

・土地の若い人たち↓陽を浴びるように、膚をさらす薄着が多い

・風に乗ってやってくるふわふわの白いもの

← 縁がない

ヤナギの種だと後になって知る

種を送り出しているヤナギが何本もあつた筈なのに通り過ぎてしまった

湖のほとりや草原で小さな子たちが野遊びをしていた

ここには妖精が棲み、オフエリアのような少女が育っているような気がした

（無邪気な雰囲気、心が明るくなる印象）

柳と楊

柳：シダレヤナギ（皇居のお濠端にある）

楊：タチヤナギ及びネコヤナギ（活花）

色のある花を咲かすことも匂いもないが、荒廢地に根付き土砂の流出を防ぐ

化粧柳

バイオニア植物

重要語句

○凌ぐ⇨辛抱して乗り越える。

【指導のポイント】

日々接する言葉を、言葉の単位(文章、段落、文、文節・単語)で理解する。文節がなす連文節のまとまりどうしがなす関係を理解しながら、それらの構成する文の意味を考える。さらに、それら文がなす段落、そして文章の理解がなされる。ここでは文節及び連文節を単位として文を理解することを目標とする。

演習問題の板書例

<p>1 言葉の単位は大きい順に 文章・段落・文・文節・単語</p> <p>2 (1) 私は 朝食に パンと オレンジを 食べた。 (2) 空には きれいな 星が たくさん かがやいて いる。 (3) 白い ネコが 神社の 階段を かけ下りました。</p> <p>3 (1) ぼくの妹は 毎朝七時に起きる。 (2) 私が好きな 食べ物は、あまい生クリームのショートケーキです。</p> <p>4 (1) (主語) 彼は (修飾語) 中学校まで (述語) 自転車で行く。 (2) (独立語) もしもし、中山と申します。(述語) …主語は省略(私は中山と申します)</p> <p>5 (1) 私の 見つけた 箱は、ここに あります。 (2) 野球や サッカーの 審判の仕事に興味がある。 (3) 祖母からの 手紙を 何度もくり返し 読んだ。 手紙を 読んだ ↓ 修飾・被修飾の関係</p>	<p>6 (2) ① 私の 弟は たぶん 公園に いるだろう × いる だろう ↑ 「いるだろう」で一文節 = いると推定している</p> <p>7 (1) 暑だったので、先生が 窓を 開けた。 (2) 美しい 鳥が、湖の ほとりに いる。 (3) 駅に 急いで 行つたが、電車に 乗れなかった。</p> <p>8 (1) 今 あなたが 描いている 風景画を、ぜひ 私に 見せて ほしい。 描くという動作の最中</p> <p>(2) 実際に 新しい くつを はいて みると、足が だんだん 疲れて きた。 はくことを試す 疲れた状態に移行する</p> <p>(3) 妹が 誕生日に くまの ぬいぐるみを 欲しがって いたので 買って あげた。 欲している状態にあつたため 買うことを奉仕した。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------